

藤田組

第13回企業セミナーを開催

「新興国の隠れたリスクとその対策」テーマに 海外進出企業の留意点を具体例交え解説

保険代理店の藤田組は7月12日、日本橋倶楽部(東京都日本橋)で第13回企業セミナーを開催し、東京海上日動リスクコンサルティング上席主席研究員の茂木寿氏が「新興国各国の隠れたリスクと懸念な対策」をテーマに解説した。中国やインドなどの新興国への海外進出を進める企業が留意すべきリスクについて具体例を交えながら解説した。会場には海外事業に携わる企業の担当者らが参集した。



茂木氏

茂木氏はまず、「新興国に進出した際の企業を取り巻くリスクは無制限にある」とした上で、「それでもなお、新興国には進

出した場合に最も危険なのは、進出を急ぐあまり、念入りな調査や規定を準備しないままに進出してしまつたと、指摘した。

また、近年の国際情勢の変化について触れ、民族・宗教問題の高揚や、国際機関などの機能の低下、地域・国間の貧富格差の拡大を挙げ、特にグ



ローバリゼーションの進展については、「高度情報化により情報過多の傾向があり、風評が瞬時に広がってしまう」と述べ、注意を促した。新興国のリスクとして

は、「労務管理に苦勞している企業が多い」として、急速な賃金上昇への対策や、手厚い労働者保護の必要性などを挙げながら、「労務管理に関し



セミナーのようす

て日本は独特の文化を持つているため、海外では対応に注意する必要がある」と指摘。カントリーリスクについても、「政府の出した情報でも予断を持たずに検討し、定期的に見直すことが重要だ」とした。

このほか、自然災害リスクや環境リスク、交通事故、治安問題など幅広く解説した茂木氏は「新興国のリスクは確かに多いが、その中でも多くの日本企業が安定的に利益を上げている。これは日本人の順応力と危機管理能力のなせる技だ。自信を持って進出してほしい」と締めくくった。